

飛騨市民病院経営強化プラン（概要版案）

【策定趣旨】

持続可能な地域医療提供体制を確保するため時代の転換点となる2025年の地域に寄り添う病院の将来像を明確にし、「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」（2021年度総務省公表）に基づき、飛騨市民病院経営強化プランを策定します。

【当院が抱える課題】

当院の診療圏の飛騨市神岡町と高山市上宝町及び高山市奥飛騨温泉郷を含めたいわゆる「高原郷」は、飛騨二次医療圏内でも突出して高齢化の加速と人口減少による医療需要の変化が生じています。加えて、常勤医師を始めとする医療職種の確保、更には令和4年度(2022年度)で築32年となる施設の老朽化への対応が必要な状況です。

【計画期間】

令和5年度(2023年度)から令和9年度(2027年度)

【病院概要】

標榜診療科 (15診療科) :

内科・外科・小児科・循環器内科・呼吸器内科・腎臓内科・
糖尿病内科・整形外科・脳神経外科・婦人科・耳鼻咽喉科・
眼科・皮膚科・泌尿器科・心臓血管外科

病床数：一般54床（うち地域包括ケア病床20床含む）、療養27床

【目指す姿】

当該地域に必要な一次、二次救急の体制維持に加え、地域に寄り添う回復期機能、医療依存度の高い長期療養及び在宅医療、更にはプライマリ・ケア、慢性疾患のケアの役割を担っていきます。

「地域に寄り添う地域包括医療・ケアの拠点」

地域包括医療ケアを実践し、医療と介護、福祉、保健、そして生活（コミュニティ）との連携拠点を目指します

「やりがいと働きやすさを兼ね備えた職場環境」

職員が互いに認め尊重し合い、やりがいと働きやすさを兼ね備えた職場環境を目指します

「新たなステージへ向けた健全経営」

時代の転換点となる2025年以降も病院経営を持続するため経常収支均衡を目指します

【経営強化プランにおける取組みの柱】

◆ 重点課題Ⅰ 地域包括医療・ケアの実践

地域包括医療・ケアの拠点として、地域になくてはならない医療を提供し、子供から高齢者までが自分らしく望む場所で安心して暮らせるための地域づくりを行っていきます

- ✓ 地域になくてはならない医療提供の維持
- ✓ 保健・福祉・介護と連携した予防医療の推進
- ✓ 在宅療養体制の強化
- ✓ ホスピタリティ推進と地域との信頼関係強化

◆ 重点課題Ⅱ 地域に寄り添うプロフェッショナル人材の涵養

やりがいと働きやすさを兼ね備えた職場の中で確かな医療スキルとホスピタリティをもって地域に寄り添って働く人づくりを行っていきます

- ✓ 互いに認め尊重し合う職場風土改革
- ✓ 職場環境と業務効率の改善
- ✓ 研修・人材交流を通じた人材育成の充実
- ✓ 県・派遣元大学/病院・地元学校との関係強化

◆ 重点課題Ⅲ 新たなステージを見据えた収支バランスの最適化

高原郷及びその周辺地域の未来の姿を見据え、職員の経営意識の向上を図りつつ、病院機能にあった投資判断、収支の改善に取り組み、健全な経営体質づくりを行っていきます

- ✓ 持続可能な経営管理体制の推進
- ✓ 病棟等医療機能・内容の継続的見直し
- ✓ 収益に見合った人員配置
- ✓ 材料費・経費のコスト削減

【経営強化プランにおける取組】

(1) 役割・機能の最適化と連携強化

- ◆ 地域医療構想等を踏まえた当該病院の果たすべき役割・機能
 - ・当地域に必要な二次救急をはじめとした救急・急性期機能(急性期病床)に加え、地域密着の回復期機能(地域包括ケア病床)、医療依存度の高い長期療養・慢性期機能(療養病床)及び在宅医療、更には外来機能としてプライマリー・ケア、慢性疾患のケアの役割を担っています
 - ・医療需要の変化に合わせて病床数及び病床機能の転換を図り、急性期機能中心の病棟は回復期機能中心へ転換していきます

病床数	2018年 (前プラン策定)	2022年 (プラン策定)	2025年 (地域医療構想)	2027年 (目標)
急性期	58床(50床)	54床(34床)	- (22床)	- (22床)
回復期	- (8床)	- (20床)	50床(28床)	50床(28床)
慢性期	33床	27床	27床	27床
計	91床	81床	77床	77床

※病床数のうち()は病床単位の内訳

- ◆ 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割・機能
 - ・地域の医療と介護、福祉、保健、そして生活（コミュニティ）との連携拠点「地域包括医療・ケアの拠点」の役割を担っていきます
- ◆ 機能分化・連携強化
 - ・当院では対応が難しい急性期機能については、高山赤十字病院、久美愛厚生病院、富山大学附属病院等へ患者を紹介する等連携しています
 - ・急性期後の回復期機能や慢性期機能、在宅医療については、他院から受入れ連携を図っています
- ◆ 一般会計負担の考え方
 - ・地方公営企業繰り出し基準に関する総務省自治財務局長通知の考え方に基づき、基準内繰入を原則とします
- ◆ 住民の理解のための取組
 - ・限られた医療資源と当院の役割について「飛騨市民病院を守る会」をはじめ地域住民と継続的な協働機会を通して、理解促進を図ります

(2) 医師・看護師等の確保と働き方改革

- ・富山大学、岐阜県、医療法人等の派遣協力のもと医師確保を図るとともに、看護師等の医療従事者にも地域医療の研修施設として魅力的な研修環境の整備を進めます

(3) 経営形態の見直し

- ・行政政策として救急医療や小児医療などの不採算医療や地域医療を確保維持するため、現状のまま飛騨市の直営施設としての経営を継続していきます

(4) 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組

- ・病棟構造上の問題から一般医療を提供しながら積極的な感染症の入院患者の受入れが難しく、新興感染症等の感染拡大時は他院と連携して回復期の患者の受入れを行い、飛騨市と協力しながら地域の感染対策や地域の一般医療を維持します

(5) 施設・設備の最適化

- ・建物設備が老朽化してきており、感染症等への対応が難しい状況や災害対策の観点から、病院の新築移転を視野に適切な規模、診療体制の検討を進めます
- ・患者サービスの向上、業務の効率化、人口減少地域の住民の受診機会の更なる確保を進めるため、電子カルテシステムやオンラインツール等ICTの活用を図っていきます

(6) 経営の効率化等

- ・職員の経営意識の向上、地域人口動態に応じた患者数の確保、診療単価の維持・向上を図り、病院機能にあった投資判断、収支改善に取り組み、健全な経営体質づくりを行います

数値目標	2021(実績)	2022(実績)	2023(計画)	2024(計画)	2025(計画)	2026(計画)	2027(計画)
経常収支比率(%)	103.5	99.3	99.1	99.1	99.1	98.6	100.1
修正医業収支比率(%)	85.7	84.7	83.1	83.2	83.2	82.9	84.8
医業収益(百万円)	1,197	1,230	1,238	1,242	1,248	1,248	1,250
医業費用(百万円)	1,397	1,452	1,490	1,493	1,500	1,506	1,475
医業損益(百万円)	△199	△222	△251	△251	△252	△257	△224
経常損益(百万円)	52	△11	△14	△13	△14	△21	2
入院患者数(人/日)	59.6	62.4	62.4	62.4	62.2	62.2	62.2
外来患者数(人/日)	222.2	220.0	220.0	220.0	220.0	220.0	220.0